


平成29年11月2日 森と自然を活用した保育・幼児教育に関する自治体勉強会  
平成29年11月3日 森のようちえん全国交流フォーラム2017 in 東京 分科会

信州やまほいく

## 信州型自然保育の現状と展望

～自然保育が目指す子どもの豊かな幼児期～

長野県県民文化部次世代サポート課



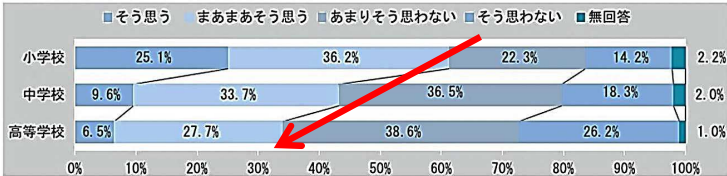
# 子どもの自己肯定感

## 自己肯定感の低さ（長野県）

子どもの自己肯定感は、**小学生 61.3%、中学生43.3%、高校生34.2%**と、**学齢が上がるにつれ大きく低下している。**

自己肯定感  
今の自分のことをどう考えていますか。  
(1) 自分のことが好き

学校段階が上がるにしたがって「そう思う」、「まあまあそう思う」は減少し、「あまりそう思わない」、「そう思わない」が増加する。「そう思う」、「まあまあそう思う」の合計は、小学生61.3%、中学生43.3%、高校生34.2%となっている。



学級	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小学校	25.1%	36.2%	22.3%	14.2%	2.2%
中学校	9.6%	33.7%	36.5%	18.3%	2.0%
高等学校	6.5%	27.7%	38.6%	26.2%	1.0%

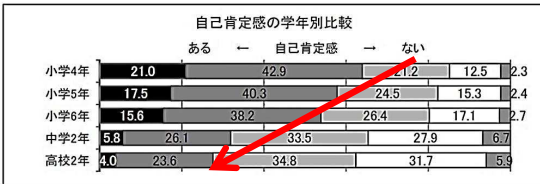
平成24年3月 長野県青少年生活意識調査（長野県次世代サポート課）

## 自己肯定感の低さ（全国）

同様に、子どもの自己肯定感は大きく低下している。

(自己肯定感の現状)

■ 「学校の友だちが多い方だ」「今の自分が好きだ」などの自己肯定感に関する質問項目に「とても思う」と答えた割合は、学年が上がるにつれて低くなり、中高生になると急激に低くなる傾向にある。



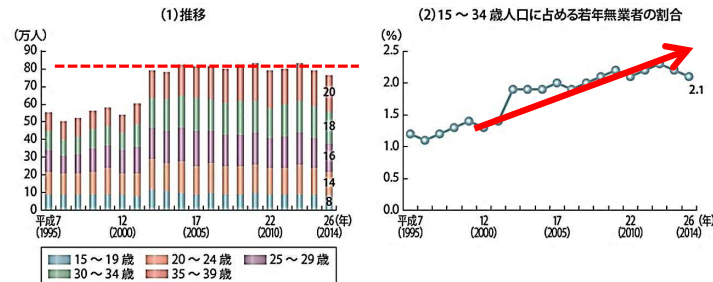
学年	ある	自己肯定感	ない		
小学4年	21.0	42.9	21.2	12.5	2.3
小学5年	17.5	40.3	24.5	15.3	2.4
小学6年	15.6	38.2	26.4	17.1	2.7
中学2年	5.8	26.1	33.5	27.9	6.7
高校2年	4.0	23.6	34.8	31.7	5.9

平成 26 年 3 月 平成24年度青少年の体験活動等に関する実態調査（国立青少年教育振興機構）

## ニート・ひきこもりの深刻化

ニート（若年無業者）は80万人前後、ひきこもりも70万人前後を推移

第1-4-13図 若年無業者数



(出典) 総務省「労働力調査」若年無業者数  
 (注) 1. ここでいう若年無業者とは、15～34歳の非労働力人口のうち家事も通学もしていない者。グラフでは参考として35～39歳の数値も記載。  
 2. 平成23年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。

## 長野県の問題意識

信州の子どもたちの「自己肯定感」は  
 小学生は **6割**（4割が自己否定的）  
 中学生で **5割**を切り  
 高校生では**3割**程度しかない！

**自己肯定感が下がり続けると  
 社会的自立が困難になり  
 引きこもり状態も長期化**

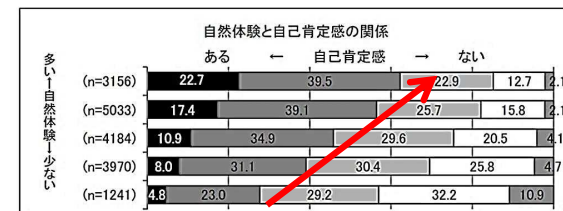
自己肯定感  
 ×  
 体験活動

## 自己肯定感と自然体験（日本）

自然体験が豊富な青少年ほど、自己肯定感が高い。（小中高とも）

（自然体験と自己肯定感の関係）

■ 自然体験が豊富な青少年ほど、自己肯定感が高い傾向にある。これらは、どの学年（小学生、中2、高2）においても、同様の傾向が見られる。



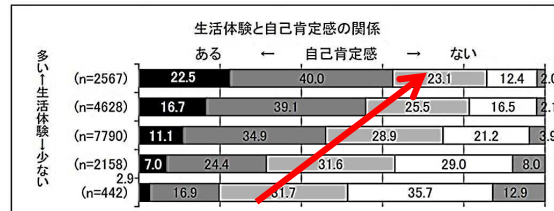
平成26年3月 平成24年度「青少年の体験活動等に関する実態調査」（国立青少年教育振興機構）

## 自己肯定感と生活体験

生活体験が豊富な青少年ほど、自己肯定感が高い。(小中高とも)

(生活体験と自己肯定感の関係)

- 生活体験が豊富な青少年ほど、自己肯定感が高い傾向にある。また、どの学年(小学生、中2、高2)においても、同様の傾向が見られる。



平成26年3月 平成24年度「青少年の体験活動等に関する実態調査」(国立青少年教育振興機構)

自然体験や生活体験が  
豊かな子どもは  
自己肯定感が高い!



子どもの自己肯定感を  
高めるためには  
自然体験や生活体験が  
不可欠!!

## 自然体験とは

自然環境の中で自然の素材や要素を活用して行う各種活動。

- 例: キャンプやハイキング等の野外活動、動植物や星の観察等の自然・環境学習活動、自然物を使った工作、自然の中での音楽会といった文化・芸術活動、一次産業(農作業・漁業等)体験、など



## 生活体験とは

「世の中で暮らしていくための力」を体得しようという考えに基づいた「生活力や生きる力の習得」のために行う各種活動。

- 例: 調理、掃除、修繕、裁縫、味噌・醤油作り、地域交流活動、など



# 信州やまほいく

(信州型自然保育)

## 認定制度



## 自然保育とは

豊かな自然環境や多様な地域資源を活用した屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に保育や幼児教育に取り入れる活動

信州は、森林面積が全国3位（県土の約8割）  
 信州は、村の数が全国1位（35村／77市町村）  
 信州は、“森のようちえん”の数が全国1位（21園）

**恵まれた信州の環境を  
 保育や幼児教育に活かしたい！**

## 信州型自然保育認定制度とは

自然保育の社会的認知、信頼性、質の向上を担保するため「自然保育」に取り組む団体を**選択できる2つの種別と24項目の基準で長野県が独自に認定し、支援する仕組み**

- 特化型**：質、量ともに自然保育に重点を置いている活動  
**普及型**：他のプログラムと併せて自然保育にも積極的な活動

## 認定基準

- ① 団体運営の安定性と透明性 (4項目)
- ② 自然体験活動の計画性及び環境と時間の確保 (3項目)  
 特化型：屋外での体験活動を週15時間以上  
 普及型：同、週5時間以上
- ③ 保育及び自然体験活動の質の担保 (7項目 普及型6項目)
- ④ 屋外での体験活動における安全管理 (7項目 普及型6項目)
- ⑤ 地域との連携 (1項目)
- ⑥ 小学校との連携 (1項目)
- ⑦ 個人情報保護 (1項目)

**7領域24項目（普及型22項目）**

## 時間基準について (週5時間、又は15時間以上)

- 屋外限定ではない
- 自然活動限定ではない
- 週や季節で増減OK
- やらせるのではなく、  
 子どもの主体的な体験を保障

生活体験や  
 地域交流も

## 認定制度の特長と実績

**県内全ての園が参加できる制度**  
 (保育園、幼稚園、認可外保育施設等)  
**すべての子どもを対象にしたい！**

制度創設3年間で、**全県域152園が認定**

H31年度までに**全県の1/3程度**  
**(250園程度)**の認定を目指す！

## 認定園（152園）の内訳

公立保育園・幼稚園 **109**  
 私立幼稚園・認定こども園 **31**  
 認可外保育施設（森のようちえん等） **12**

普及型認定園 **142**  
 特化型認定園 **10**

27 / 77市町村

14 / 19市  
 8 / 23町  
 5 / 35村



**制度普及には**  
**市町村の理解と協力が不可欠！！**

## 長野県の保育・幼児教育施設

H29年4月現在

	保育所	幼保連携 認定こども園	幼稚園	認可外 保育施設
公立	429	2	10	
私立	110	29	85	143
計	539	31	95	143

合計 **808**

## 人材育成と情報発信の2つの柱

- 各園保育者の自然保育**研修交流会**の開催（4回）
- 各園に自然体験活動**専門指導者を派遣**（専門研修）
- ▲ **自然保育ポータルサイト**の開設（H28年1月～）
- ▲ **県外への積極的な情報発信**（銀座NAGANOでのセミナー他）
- ◆ **公的支援のない認定園への人件費助成**（H29～）
- ◆ **森林税で活動フィールド整備ほか**（検討中）

**公立私立問わず積極的な支援を目指す！**  
**（運営安定化や人材確保に向けて）**

## 2つの補助事業

### ◆信州型自然保育認定団体助成事業（H29～）

対象：既存の保育・教育制度による公的助成を受けていない信州型自然保育認定団体  
 助成形式：対象団体への直接補助  
 対象経費：対象団体における保育者の人件費（補助率は年間総人件費の1/4を上限）  
 予算額：H29年度 8団体に17,002千円  
 → H30年度 11団体に23,139千円（要求額）

- ・保育者の処遇改善
- ・運営の安定化
- ・保育の質向上

### ◆自然保育活動フィールド等整備事業（H30～予定）

対象：自然保育認定団体で自然保育の活動フィールドの整備を行った団体  
 助成形式：対象団体への直接補助（「長野県森林づくり県民税」活用）  
 対象経費：活動フィールドの林間整備、歩道整備等（補助率9/10）  
 避難小屋、屋外トイレ等付帯施設整備（補助率1/2）  
 予算額：H30年度 5,325千円（要求額）  
 （5年間総額 26,625千円）※5年間で延べ40園予定

- ・自然保育の安全性確保
- ・保育環境の充実と質向上

## 認定制度ができるまで

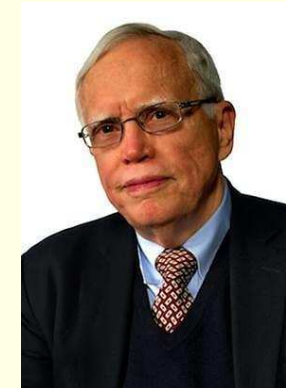
H24年4月 信州の自然を活用した保育や幼児教育に関する情報収集開始（長野県野外保育連盟と連携）

H25年6月 「信州の自然環境を活用した子育て・教育のあり方研究会」を庁内に設置

H26年4月 「信州型自然保育検討委員会」設置  
 （保育園、幼稚園、認可外保育施設みんなで検討！）

H27年4月 「信州型自然保育認定制度」施行

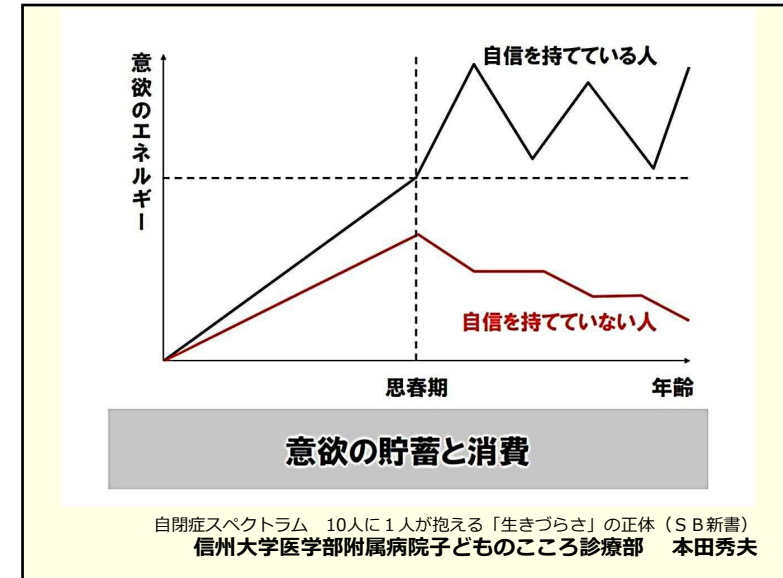
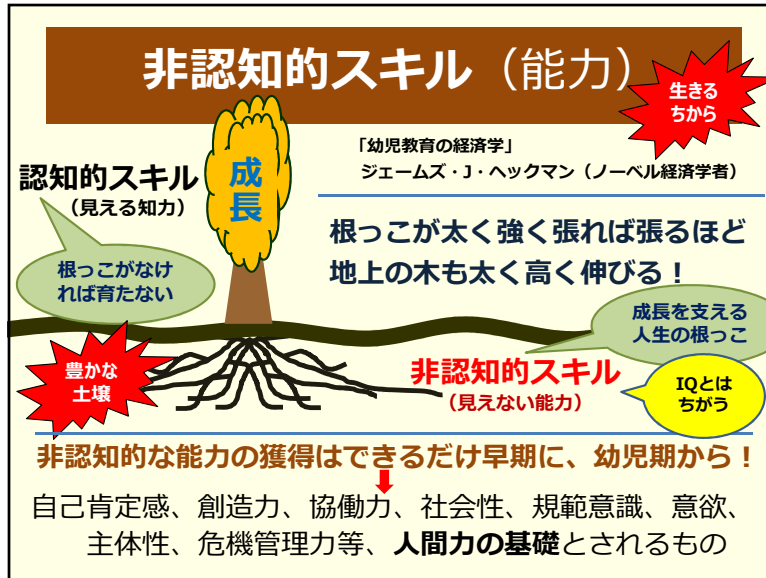
なぜ、認定制度を  
 創ったのか！？  
 幼児期の重要性  
 の共有と普及



ジェームズ・ジョセフ・ヘックマン  
 (James Joseph Heckman)  
 1944年4月19日～  
 シカゴ大学の経済学者  
 2000年にノーベル経済学賞を受賞



幼少期における豊かな教育の重要性



## 思春期よりも前に取り組みたいこと

- 教科学習よりも心の健康
- 自信と現実感の得られる生活環境づくり
- 合意の習慣を通じた自律と社会性の育成

自閉症スペクトラム 10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体 (SB新書)  
信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部 本田秀夫

## 自然保育って・・・

- 山奥じゃないとできないんじゃないの？
- ただ外で遊んでいるだけじゃないの？
- これまでの保育や幼児教育とは違うの？
- 特別なことをやらないといけないの？
- これまでの保育や幼児教育じゃダメなの？

いろんな疑問や不安について、自然保育の実践の共有を通じて理解促進！

自然保育は、**目新しいことでも特別なことでもなく、これまでの保育や幼児教育と目指すゴールは同じ！**

自然保育は

**「信州の豊かな地域資源を生かした信州らしい保育・幼児教育」** そのもの！

県内各地で実践されている**これまでの保育や幼児教育をさらに豊かに深めてほしい！**

幼児期の子どもにとって不可欠な環境や大人の関わり方など、

**子どもを真ん中**にして、

支える大人たちが、保育、幼児教育の

**大切なこと**を確認しながら、

**つながりあい、学びあうこと**のできる

長野県を目指したい！



**信州型自然保育認定制度**は、

子どもの**幼児期の重要性**を、保護者、保育者、地域住民、行政など、

子どもをとりまく大人が共有し、

**子どもの主体的な育ちと学びを大切に**

したいという思いから生まれた制度



**自然保育は**

**特別な保育・幼児教育ではなく、画一的な“手法・プログラム”でもない。**

**「子どもがまんなか」の保育の価値と意義を共有する“理念”**

**大切なのは、子どもの主体的な体験を意識し、日々の保育を再確認すること！**



信州やまほいくの郷

認定園の自然保育の実践事例が500近くも紹介されています!!

<http://www.shizenhoiku.jp/>

### 「信州やまほいくの郷」の活用

地域性豊かな多様な実践

保護者との会話のきっかけに

<http://www.shizenhoiku.jp/>

## 自然の2つの意味

- 自然の中の豊かな体験を大切にする保育
- 自然な人間関係を保育に取り入れる保育  
(子どもが安心できるよう、子どものありのままの育ちを受け止め、見守る)

**自然に生きる大人の姿を、子どもが間近で見ることのできる環境を!**

汐見稔幸 (白梅学園大学学長 東京大学名誉教授)  
東御市子育てシンポジウムでの発言 (2015年11月15日)

認定園のエピソード

## 自然保育 = 余裕保育

時間的、空間的、心理的なゆとりをもって、  
特に公立園

## 「ねばならない」からの解放

### 認定園の先生方から、認定後に直接伺った感想

- 入園以降全く笑顔を見せなかった園児が、自然保育の活動の中では**初めて笑った**ことがとても嬉しかった。
- 植物の成長や虫などの小さな変化に子ども達の目が向くようになり、今まで見られなかった**気づきが得られた**。(保育者にとっても同様)
- 自然の中で園児が見せる豊かな表情や表現に触れることで保育者の気持ち癒されたり、保育者自身も空の変化や季節の変化に目を向けるなど、**心に余裕が生まれた**。
- 園児と行った自然保育の活動が話題となり、**保護者とのコミュニケーションがとりやすくなった**。
- 保育者の**保育へのモチベーションが向上**し毎日の仕事が楽しくなってきた。
- 何も言わなくても若い保育者たちがそれまでよりも**早くに出勤**するようになった。
- これまで、やりたくてもつい遠慮していたような活動でも、保育者からの積極的な提案でやれるようになり、**職場全体の活力が向上**した。

### 信州型自然保育認定制度は

信州にもともとあった  
多様で豊かな保育や  
幼児教育の楽しい実践を

盛り付けるための  
器にすぎない！



子どもの自己肯定感を大切に  
する保育の方向性が共有できれば  
実現の方法やスタイルは  
多様でいい。

モチベーションアップ  
気持ちに余裕ができた  
やりたい保育ができる

県が市町村や各園に  
“やらせる”のではなく  
やりたいと思う主体的な園と  
保育者を応援する制度！！

### 自然保育を制度化した理由

- ①自然保育の信頼性と質を担保  
“保育の見える化”により客観性を高める
- ②多様な保育・幼児教育の  
知識と経験を共有  
団体が連携できるプラットフォームづくり
- ③自然保育の社会的認知・理解を推進  
普及のための集中的な広報啓発

## 信州型自然保育認定制度の意義

- ① **規制ではなく**  
求められる保育を保障
- ② **義務ではなく**  
選択可能な制度
- ③ **画一的でなく**  
子どもや保育の多様性尊重

## 中教審答申における 幼児教育関係のポイント

### 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿の明確化

幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化が図られるよう、5歳児修了時まで  
に育って欲しい具体的な姿を資質・能力の三つの柱を踏まえつつ、以下の10項目  
に整理。

幼稚園等と小学校の教員が持つ5歳児修了時の姿が共有化されることにより、  
幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化が図られることを期待。




自然保育は  
2018年以降の  
保育指針、  
幼稚園教育要領、  
学習指導要領と  
全く矛盾しない！！

## 自然保育は

発達の凸凹や  
様々な特性を持つ  
子どもの成長や  
学びにも有益！

# 小学校以降も 幼児期からの 豊かな体験を尊重した 多様な学びを 保障してほしい！



## “遊び込む経験”が多いほうが 「学びに向かう力」は高い！

【図3】 子どもの「学びに向かう力」(遊び込む経験別)

遊び込む経験	少群 (889)	多群 (1012)	(%)
【協調性】遊びなどで友だちと協力できる	89.9	96.1	
【がんばる力】いろんなことに自信をもって取り組める	72.3	89.3	
【好奇心】新しいことに好奇心をもてる	88.9	96.1	
【自己主張】困ったことがあったら助けを求められる	77.6	89.2	
【自己統制】人の嫌がることはがまんできる	76.0	86.0	

園での経験と幼児成長に関する調査 (2016年2月)  
株式会社ベネッセホールディングス

### 幼児期によく外遊びをしていた子どもほど 小学校に入ってから体力がある

週に	男子	女子
6日以上	57.9点	59.1点
4~5日	56.4	57.0
2~3日	54.7	56.6
1日以下	52.8	51.2

10歳児の入学前の体力テストの外遊びとの関係  
スポーツ庁調べ

大切なのは「自由遊び」

「幼児期に体を動かすことは、小学校での運動やスポーツの習慣につながっている」と、スポーツ庁発表の「体力・運動能力調査」で！！

資料引用：朝日新聞社

### 長野県教育委員会 「中山間地域における学び」に関する アンケート調査 (H29年5月)

信州やまほいく認定園と学校とが連携した自然体験活動等を実施したいと考えていますか。

信州型自然保育（信州やまほいく）と学校との連携にはメリットがあると考えていますか。

回答	割合
① すでに実施している	10.4%
② 条件が合えばやりたい	26.0%
③ まだ考えていない	64.9%
① メリットがある	22.1%
② メリットはない	3.9%
③ わからない/無回答	64.9%

4割近く前向き！

96%の可能性！

## 主体的な学びの学習県へ！

幼児期から思春期までの  
**主体的な学びが切れ目なく実現**  
 されるための環境づくりには  
**市町村と県の密接な連携が重要**

その入り口として「信州やまほ  
 いく」をぜひ活用してほしい！

## 少子化は地方自治体共通の課題

子育てが楽しくなれば

もうひとり  
 子どもいても  
 いいかな？

➡ **自然増！**

子育てしやすい環境があれば

保護者以外に  
 保育者も  
 移住したい！

➡ **社会増！**

これからの時代

子育てや教育の  
 より良い環境を求めて

**人は動く！！**

**都会の子育て世代**  
 = 子育て移住へ関心アップ

**都会で働く保育者**  
 = 地方の人材確保に期待

潜在的ニーズ  
 を開拓！

子育て環境が重視されない →  
**「子育てしなくていい」という  
 マイナスメッセージに!?**

なんとか地域に保育所を残したい!

保育から地域を元気に!!

**信州型自然保育認定園  
 伊那市高遠第2・第3保育園**

**休園の危機から園児倍増!**

保護者と地域が一体となり

公立保育園が地域性や独自性を  
 アピールできれば

**地域は元気になる!**

1年間で10世帯  
 以上が移住!

詳しくは「伊那市広報番組い〜なチャンネル」(平成28年10月29日放送分)をご覧ください。

あらためて

自然保育とは

子どもにとっては  
自然の中の宝物さがし

おとなにとっては  
子どもの中の宝物さがし

自然環境 ≠ 自然保育

豊かな自然 + 保育者の  
高い意識 = 自然保育

自然環境が限られていて  
も自然保育はできる

ニートやひきこもり等の  
若者が増加



税金はマイナス！  
社会保障関係費は増大！  
莫大な社会的損失

保育・幼児教育の充実は

未来社会への  
投資

## 長野県政と自然保育

最重点施策

### 次期総合5か年計画 (H30年~34年)

幼児教育の総合的支援 → 仮称「幼児教育支援センター」設置

移住促進  
地方創生

### 次期教育振興基本計画 (H30年~34年)

幼児教育の充実と強化と、五感を磨き主体性を育む  
信州の特性を生かした自然教育・野外教育の推進

自然教育推進

### 子ども・若者支援に関する総合的な計画

生き抜く力を育てる幼児教育の充実 (H30年~34年)

子育て支援  
少子化対策

### 長野県森林づくり県民税 (H30年~34年)

多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用

自然環境の  
利活用

→豊かな森林を活かした自己肯定感を高める自然教育・子育てを推進

→学校林の整備と「信州やまほいく(信州型自然保育)」のフィールド整備

## 第67回全国植樹祭でも披露

### ●信州やまほいく(信州型自然保育)

信州の豊かな自然環境と多様な地域資源を活用し、野外を中心としたさまざまな体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育。



信州やまほいく(信州型自然保育)の認定園の一つ学校法人いづな学園こどもの森幼稚園の園児達の歌とダンス

**認定を付与するだけの  
制度にはしたくない！**

**30年後も地域が  
元気であるために  
保育者が誇れる保育・  
幼児教育の基盤となる  
制度にしたい！**

**子どもをまんやかに、  
子どもの主体性、自己肯定  
感を大切にする保育・  
幼児教育が当たり前の  
長野県になれば、**

**自然保育認定制度の  
目標は達成！**

**次世代サポート課 (H23新設) とは**

**長野県のすべての子どもと  
若者を一人残さず支援したい**

(長野県知事 阿部守一) 子どもの  
生前から

- 婚活支援、少子化
- 自然保育・幼児教育の推進
- 子どもの貧困対策、発達障がい児の支援
- 子どもの居場所支援、いじめ防止
- 子どもの性被害の防止と支援
- ニート・ひきこもり等の若者の社会的自立支援  
などなど

**↓**  
成人まで



**次世代（未来の社会）  
を創造する、いまの  
子どもと若者たちを支援！**

**首長部局と教育委員会の  
横断的連携と官民協働の推進で  
誕生日～おとなまで  
切れ目ないサポートをめざす！**

## お問い合わせ

〒380-8570

長野県庁 県民文化部次世代サポート課

TEL : 026-235-7210

FAX : 026-235-7087

E mail : [jisedai@pref.nagano.lg.jp](mailto:jisedai@pref.nagano.lg.jp)

ご清聴ありがとう  
ございました。  
m(\_\_)m



信州やまほいく